

光和コンピューター

電子マネキン、ツタヤで好調

1日あたり4.3倍の効果

クリーンに人物の映像を撮影した等身大の電子看板。プロジェクターで映し出された人物はまるで本物がいられるかのようにも見える。

光和コンピューターは十月二十三日から十一月末にわたって都内荒川区のTSUTAYAで実証実験を開始。高橋書店の手帳をハイパー・マネキンで販売促進した。

その結果、導入前の二週

間で一六二音だった実売額が導入後七日間で三五〇部と大幅に売行きを伸ばし、一日当たり四・三倍の効果があったという。

同社では「手帳は時期もので本当はどれだけの効果があるのかは微妙」と述べながらも、手心えをつかんでいるようだ。

マネキンのモデルは誰でも可能。同社が撮影し、音声も含めてリクエストに応

じる。また、一枚の写真を映像に加工し、「口」をつけてしゃべらせることもできる。音声は、スクリーンに骨伝導スピーカーが組み込まれており配線は不要。

同社では大型六〇インチシートを丸型に加工して、すでにアパレルショップなどで展開しているが、出版界では作家をモデルにして新刊案内や著作のエピソードを語るなど、書店の拡材として出版社へ提案していく計画だ。

販売価格はマネキン型スクリーンが五〇万円、プロジェクターが二五万円程度。現在、レンタル料金も検討している。問合せは03(5821)2016、同社ネットサービス部、我妻秀樹氏まで。



電子マネキンの顔負け実物

光和コンピューターが開発・制作した音声を発する人型の立て看板、「ハイパー・マネキン」が都内のTSUTAYA店頭で販促に大きく貢献した。

ハイパー・マネキンは人型に切り抜かれた高輝度ス